

酪農における和牛飼育 ～快適な環境を哺育牛に提供する～

トータルサポート室 出雲 将之

1 哺育牛には快適な環境を用意する

哺育期間中は、衛生環境について特に注意しなければならない時期です。環境性の下痢や呼吸器病の感染が起こりやすいので、牛舎内は換気を良くし、消毒や石灰塗布をするなど衛生的な環境の維持に努めてください。

母乳で飼育している場合は図1のような別飼い施設(写真1)を作り、そこには敷き料をたっぷりと使い、保温と乾燥に努めてください(お腹を冷やさないようにすることが大事です)。冬期は、保温ランプを付けるなど寒さ対策も必要です。特に牛体が濡れた状態で隙間風にさらされると、体温を奪われて体力の消耗が著しく、下痢や風邪の発生が急増します。

また、密閉し過ぎて湿度が高くアンモニア臭がこもるような牛舎では、採食量が減ったり、呼吸器官が損傷を受けて呼吸器病が多発します。夏期は窓を開放したり、扇風機で送風し、冬期間は換気扇をゆっくり回したり、晴れて風のない日に窓を開けるなど、年間を通してこまめな管理が必要です。

2 呼吸器病を防ぐ

呼吸器病の原因も下痢と同じように、感染性と非感染性があります。感染性では、ウイルス、細菌などがあり、非感染性では空気中のアンモニア、ほこり、換気などが原因となって呼吸器病に罹患します。

健康な牛であれば、細菌が気管支に侵入しても気管支粘膜にある繊毛が活発に運動し、細菌が肺に到達することはありません。しかし、アンモニアやほこりが多い環境にいる牛は、気管支粘膜の繊毛がダメージを

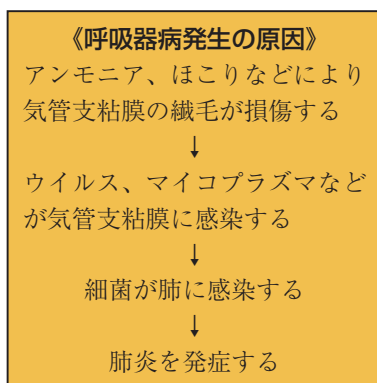


写真1 別飼いの事例

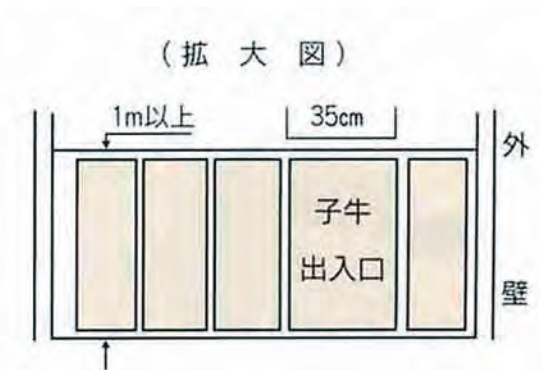
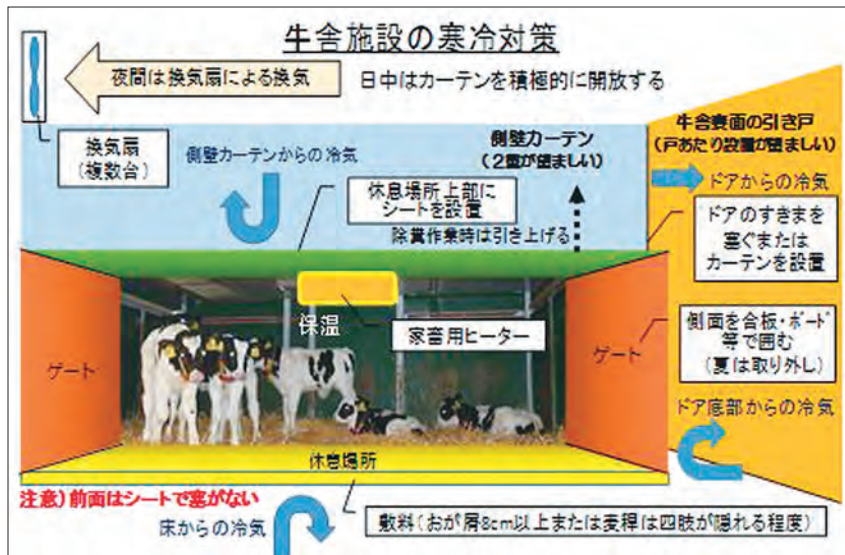


図1 子牛用別飼い施設

受け弱ってしまうので、ウイルスなどに感染しやすくなります。風邪は鼻や気管の粘膜に付着した細菌やウイルスにより感染し、発病に至ります。とくに子牛は床に近いところで呼吸するので、ほこりやアンモニアの刺激を受けやすいと言えます。これら刺激から守るためには、換気を心がけましょう。

☆舎内が凍らない程度に日中窓を開閉するなど、換気に努める。

☆寝床の敷料を増やし床が乾くようにする(換気が良くなれば舎内は乾燥します)。



出典 研究成果「子牛を寒さから守ってすくすく育てよう」
根釧農業試験場 地域技術グループ 研究主幹 堂腰 顕



写真2 フワフワの敷料

では一気に身体の熱が奪われてしまいます。体温の低下とともに体力も低下し、自力で立ち上がることが出来ず初乳も飲めずに、凍死してしまうことになります。予定日の2週間前頃から分娩房に入れ、お産に備えましょう。

3 風邪や下痢の予防に換気と保温に努める

離乳前の子牛が寒い冬に、身体を震わせながら縮こまっている姿ほど可哀想に思えることはありません。下痢をしたり風邪をひいて免疫力が低下している時にこのような寒さに当たると、病気が重症になり取り返しのつかないことになってしまいます。離乳前の子牛の環境適応限界気温の下限値は5℃とされており、寒さは抵抗力の低い子牛にとっては大敵となります。

寒さ対策として牛舎内に繁殖牛を閉じこめ、ウォータークップが凍らないよう舎内温度を高めようとする人もいますが、こういう牛舎では風邪から肺炎をこじらせる子牛が多発します。湿気がこもり換気不良の牛舎では、糞尿からのアンモニアが子牛の気管を痛め肺炎に至ることが多くなります。冬期間に換気も良好で、暖かい環境を整えてあげることが重要です。

空気がきれい暖かい場所を作り、子牛が自由にそこに行ける環境とするために、「別飼育施設」を用意してあげてください。そこに行けば快適な環境が手にはいることが分かれば、自然に「別飼育施設」で休息するようになります。加えて冬でも天気の良い日には、屋外にも出られるようになっていけば最高です。重要なのは、牛が喜ぶ環境を人間が用意してあげ、子牛が好きな時に行き来できるようにしておくことです。

4 子牛の防寒対策

(1) 分娩房で産ませる

お産直後から寒さに気をつけなければなりません。ある農家で、冬期間に屋外で産んでしまって、見つけた時には子牛が死んでいたことがありました。子牛は産まれた直後は全身が濡れた状態ですから、冬の屋外

(2) 腹を冷やさない(写真2)

床がコンクリートむき出しで冷たいと、腹を冷やしてしまいます。子牛のいる場所には、麦稈やいなわらをたっぷり敷いてあげてください。最近は電気式の保温マットが売り出されているのでそれを使うのも良いと思いますが、麦稈やいなわらのフワフワ感には替えがたいものがあります。

(3) 保温用の機材で暖める(但し火災には十分注意する)

電熱器や赤外線ヒーターなど家畜用の暖房機は色々出ており、設置すると寒い日にはそこに子牛達が集まってきます(写真3)。暖めるのには非常に効果的と言えますが、火災に対しては十分な注意が必要です。



写真3 ヒーターで暖房

(4) 温水を給与する

飲水量が多いほどスターターの食い込みが良くなり、子牛の発育は向上します。冬期間は、冷たい水よりも温水のほうが格段に飲む量が増えます。温水は腹を冷やすことも防いでくれるので、冬期間は温水を給与できれば言うことはありません。